別海町立西春別小学校　学校だより

か ら ま つ　No.18

平成２７年２月１６日発行　　発行責任者　校長　河原　宣孝

大切な毎日　大切な関わりの連続

校長　河原　宣孝

変わっていない自分　変わった自分

先日、十数年前の教え子たちに会う機会がありました。男子は背が高くなり、女子はすぐ見てわからないほど変身し、まさに立派な大人でした。容姿だけではなく、年相応の会話の内容に、担任をしていた当時とは当然比べようにもない位に「社会人になったなあ」と、ただただ感心していました。ところが、会の後半から成長したなあという気持ちと、生徒だったときとぜんぜん変わっていないなあという２つの気持ちが途中から混ざり合って、最終的には変わってないなあという印象になるのです。これは決して成長していないということではなく、一人一人の個性がきちんと残っていて、その上に「成長」というものが身についたと感じられるということなのです。それはその子その子が持っていた話し方や話す展開、表情、リアクションなどがにじみ出てくることからそう思うのです。

一方私のことを言うと、容姿も話し方も、表情やリアクションもみんな口をそろえて「先生ぜんぜん変わってないね」という言葉で、うれしいような気持ちと、もともと老け顔の私でしたから、自分なりに「年相応になったかな」と自分に納得するのですが…。

学びで変化すること　関わりで変化すること

いままで教え子と会うたびなんとなく感覚的に捉えていましたが、このようなことを私なりに考えて結論付けてみました。簡単に言うと２種類の成長があると思っています。一つは、知的成長です。学校の授業や、自分で本を読んだり調べたりすることなど、知ったり覚えたりすることや、筋道を立てて考えをまとめたりすることです。これは、テストや発表などによって比較的容易にそして短期で成長の後を見ることができます。もう一つは、社会的成長です。学級やグループ活動、協力して取り組むなど、人と人とが関わって習得することです。たとえば、リーダー的な立場になって人と関わることを理解することや、人間関係の中で悩んだり、感じたり、克服して得るものなど、単純にテストなどで成長を見ることは難しく、ある程度長い時間がかかることだと思います。自分の心の成長に関するものも含まれています。

教え子たちと接してみて、中学生や高校生、大学生、社会人１年生と社会人５年生では、それぞれに身長が伸びたり、大人風な顔つきになったりという体の成長はもちろんですが、言葉遣いや話す内容といったものは知的成長であり、話が弾んで感じられた個性に類することは社会的成長の部分であると考えるとつじつまが合いそうです。また、私のようにある程度社会人になってからの成長と、児童期、少年期の成長では、その差は当然若ければ若いほど身に付いたり、吸収力は高いといえそうです。

学びと関わりの中で

小学校では知的成長も社会的成長も得られるよう工夫をしています。授業をわかりやすく展開すること、自ら進んで学習が取り組めるように工夫すること、子ども同士関わるように仕向けることなど、少人数ではあるけれど、意識して学習や行事などを工夫しています。なにより、一人一人の個性を理解した上で、学習展開を構成することも気に留めています。一番子どもの個性を良く知って保護者の方々にも情報を提供しながら、１０年後の子ども達が社会人になったとき、一人で生きていくことをイメージして、今どのようなことが必要かを一緒に考えていきたいと思っています。そのキーワードは、学校でも家庭でも地域としても①子どもに自分の良さを気づかせてあげること、②言葉かけや体験などのきっかけをたくさん作ってあげること、③適度な背中押し、そして④人とのかかわりをたくさん持つこと、だと思っています。未来はデジタル化が進むと思いますが、結局は、想いを伝える、想いを受け止めるという、人と人とのつながりやコミュニケーションがきちんとできることが、何より大切だと思っています。

北方領土の日～全校集会から

５日(木)の全校朝会の校長先生の講話は、「日本の面積は、世界の国の面積と比べると６２番目ですが、日本の海と空の面積も合わせると、世界で何番目ぐらいでしょうか。」という質問から始まりました。そして地図を見ながら、根室管内から目と鼻の先にある北方領土についてたずねると、子ども達からは口々に四島の名前がかえってきました。社会科で学習した事をしっかり覚えている様子が伺えます。

「北方領土は、日本の領土だけれども、今はロシアが実行支配しています。問題を解決するために、長い時間がかかっているけれど、みなさんが大人になる頃には、解決していてほしいと願っています。」と締めくくられました。

スケート記録会

１月３０日(金)、リンクコンディションの関係で延期していたスケート記録会を絶好の青空の中で行うことができました。

子どもたちは、学年に応じて１００m～５００mのコースを滑走します。自分で決めた目標タイムを目指して、力強くコースを走り抜けました。保護者の皆様や保育園の子どもたちも応援に来てくださり、励みになったことと思います。

エキシビションとして希望者による１０００mコースもおこなわれましたが、高学年から３名も名乗り出てくれて記録会を盛り上げてくれました。

大会までの天候不順に気を揉む日々が続きましたが、小学校・中学校の保護者の皆様にリンク整備していただいたおかげで、今年も無事、スケート記録会を終えることができました。ありがとうございました。

節分集会

臨時休業のため、１日延期となった節分集会が４日(水)に行われました。

はじめに代表委員会が用意してくれた節分にまつわるクイズを行ったあと、児童一人ひとりから「心の中から追い出したい鬼」を発表しました。「なまけ鬼」や「ゲーム鬼」、「物にあたる鬼」など、自分が克服したいことがらを鬼になぞらえて発表しました。

そのあと、ゲームで楽しんだあと、メイン企画の豆まきです。鬼に扮した先生や上級生に豆をなげながら、季節の変わり目を楽しみました。

新一年生入学説明会

５日(木)、春から入学してきてくれる１年生の入学説明会が行われました。保護者の方に、説明会をしている間、新１年生になる４人の子ども達は、現１年生たちと一緒に図工のお勉強を体験しました。

内容は、紙で作る工作とお絵かきです。現一年生のお兄さん、お姉さんたちの班に入りながら、楽しく活動を行いました。春になって、元気に入学してくる日を楽しみにしています。

中学校の出前授業

６日（金)、中学校の先生にお越し頂き、６年生対象の出前授業が行われました。

教科は英語と数学の２教科を教えていただきました。英語は自己紹介から始まり、挨拶や果物の名前などを使ったゲームなどをして楽しみました。ほとんど英語だけを使った授業でしたが、中学校の先生にうまくリードしてもらって楽しい雰囲気で授業が進みました。数学では、平面や立体について、色紙やストローを使う作業を通して学習しました。折りたたんだ色紙に一度はさみを通しただけで、切り口が正方形やひし形などにするにはどうしたらいいか。子ども達は試行錯誤しながら、取り組んでいました。

スノーフェスタ

１０日(火)、冬の運動会とも言えるスノーフェスタが行われました。各委員会で計画した全部で５種目の競技を参加いただいた保護者の方と一緒に楽しみました。

氷上バイアスロンリレーは、そりに乗った低学年を引っ張り、的に玉を当てて帰ってくるリレーです。また親子ばん馬リレーは、坂道を駆け上った後、そりに乗って下ります。紅組白組に分かれて大きな声援が飛び交う中競技は進みます。途中、雪が降る時間帯もありましたが、子ども達の競技に臨む熱い気持ちでなんとか乗り切ることができました。

スノーフェスタが終わったあとは、５年生が作ってくれたおいしい豚汁の昼食会です。冷えた体が芯から温まりました。

大勢の保護者の方にお集まりいただき、大成功のうちにフェスタを終える事ができました。

生活改善スローガン（西春別小学校）

早寝 早起き　朝ごはん　テレビ（ゲーム）を止めて外遊び

家庭学習は学年×１０分以上